研究分野１〈ＩＣＴ機器の利活用による教育の質の向上〉

主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり

～児童生徒一人一人に合わせた ICT 機器の活用～

千葉県立千葉特別支援学校　　電話　０４３―２５７―３９０９
FAX ０４３－２５７―２２２６

研究のポイント

児童生徒一人一人に合わせたＩＣＴ機器の活用について具体的に検討したり、授業実践を報告し合う会を設けたりすることで、ＩＣＴ機器を利活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげた。また、「単元計画表」を全教科で活用し、授業の計画（Ｐ）、実践（Ｄ）、評価（Ｃ）、改善（Ａ）に継続して取り組むことで、「主体的・対話的で深い学び」の姿を引き出すための授業計画、授業改善の視点について深め、実践の定着を図った。

■学校の概要　https://www.chiba-c.ed.jp/chiba-sh/

本校は平成３年に創立し、開校３３年目を迎えた。千葉市北西部に所在し、千葉市内の３区（花見川区、稲毛区、美浜区）を学区としている。主に知的障害のある児童生徒が通学しており、児童生徒数は、小学部６４名、中学部４９名、高等部１２４名の計２３７名である。

■研究課題

「ＩＣＴ機器の利活用による教育の質の向上」
知的特別支援学校における個別最適化の学びの実現に向けたＩＣＴ利活用について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

- 児童生徒一人一人に合わせたＩＣＴ機器の活用について具体的に検討したり、授業実践を報告し合う会を設けたりすることで、ＩＣＴ機器を利活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげていく。
- ＩＣＴ機器の活用についての実践事例集を作成し、共有することや、活用に関する研修を通して教師の支援技術を高めることで、児童生徒が力を発揮するための、より効果的な活用の方法について広げていく。
- 「単元計画表」（PDCA サイクル）を継続して活用し、学習評価に基づく授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、資質・能力を育んでいくことができるようにする。

■研究概要

＜研究の成果＞
（１）ＩＣＴ機器を活用した授業づくり
①児童生徒の変容
- 動詞の学習では、写真やイラストでは伝わりにくかった内容が、タブレットと音声ペンを組み合わせて活用することで効果的に学習を進めることができた。理解が深まり、自分から繰り返し学習に取り組もうとする姿が見られた。
- 写真の選択では注目しにくかった児童生徒が、タブレットを活用することによ

り自分から画面に手を伸ばして写真を選択することができるようになった。自分の気持ちを表現することができ、自己選択・自己決定の機会が広がった。

・タブレットや音声ペンを活用し児童生徒が一人で司会進行をしたり、課題学習でプログラミングカーを活用したりすることで、子ども同士のかかわりが増え、対話的な活動につながった。

・動画を使った振り返り学習や振り返りシートの活用で、自己を客観的にとらえ、課題に気付いて解決しようとしたり、次の目標を考えたりする姿が見られた。

②教師の支援技術の向上

・実態把握から活用場面、活用のねらい、学習内容を検討し「実態表」にまとめた。学習後には、児童生徒の変容、成果と課題についてをまとめる時間を設けたことで、一人一人に合わせた活用について検討したり、活用方法を改善したりすることができた。

・「実態表」「単元計画表」を基に実践報告会を行うことで、他の学年や学級の実践を共有したり、授業づくりのヒントを得たりでき、活用が広がった。

・ＩＣＴ機器の活用について年度初めにアンケートを実施した。その結果をもとに、アプリや教材の紹介、プレゼンテーションアプリやコマ撮りアニメーションアプリ等の使い方について研修をしたり、教師同士で教え合って実際にアプリを活用した教材を作成したりすることで支援技術が向上し、授業の中での活用も増えた。

③家庭との連携

・学校で取り組んだ学習内容を家庭に伝えると、自宅でも取り組む様子が見られ、支援の共有と内容の定着により学習効果が高まった。

（２）「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

・授業研究会の中で、昨年度共有した学びの姿をイメージし、そのような姿を引き出すための手立てについて話し合って授業改善をすることができた。

・昨年度はオンラインホワイトボードアプリを活用して協議を行った。事前に意見を記入し、共有することができ、協議時間の短縮や記録の容易さが成果として挙げられた。今年度は、付箋に記入して意見を出し合うようにすることで、協議会での意見交換が活発になり、話を深めることができた。時間の確保と、集まって話し合うことの良さ等、ねらいに応じて使い分けていく必要があることが分かった。

＜今後の課題＞

・「実態表」を活用したり、「単元計画表」の内容を精選したりし、作成にかかる時間をスリム化することで授業についての検討・改善をする時間を確保し、明日の授業にすぐに生かすことができるようにする。

・ＩＣＴ機器を利活用した授業実践を継続し、データの安全な保存先の確保と蓄積、整理をすることで活用を広げることや、児童生徒が個々に使用しているデータを引継ぎ、個別最適化された学びの継続した支援ができるようにする。

関連資料
・『新しい時代の特別支援教育における支援技術活用と ICT の利用』（編著：金森克浩） ・G-Pen Blue 、Blue Linker（Gridmark） ・Drop Tap、Drops シンボル(ドロップレット・プロジェクト)